

第556回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和7年2月12日（水）午前11：30より
2. 開催場所 長野放送本社会議室
3. 委員の出席 ○委員総数 8名
○出席委員数 6名
○出席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）
委員長 林 新一郎
副委員長 井上 裕子
委員 笹本 正治
委員 武重 正史
委員 中谷富美子
委員 南澤 光弥
○欠席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）
委員 浅井 隆彦
委員 中山 潔
○放送事業者側出席者名
外山 衆司 （代表取締役社長）
船木 正也 （常務取締役 編成業務・放送番組審議会担当）
西條 彰浩 （取締役 報道制作担当 報道制作局長）
早川 英治 （編成業務局長）
浅輪 清 （編成業務局次長 兼 考査部長
兼 放送番組審議会事務局長）
北澤 輝久 （編成業務局編成部長 兼 視聴者室長）
伊藤 晴彦 （報道制作局次長）
内山 純一 （報道制作局制作部副部長）
4. 議題
(1) 番組審議

『 FNSソフト工場 妄想パッキング 』

令和6年11月22日 金曜日 午後7時00分から放送

(2) 視聴者対応報告（令和7年1月分）

(3) その他

5. 議事概要

(1) 番組審議

- ・今までにない番組の作りで、そのチャレンジが賞賛に値すると思った。
- ・三人とも個性的な人生を歩んできているので、番組を見ながらそういうところを垣間見ることができた。小松美羽さんのプロフィールをこの番組で知ることができて、とても良かった。
- ・スタジオでこの妄想の旅をウォッチしてコメントするMCの佐藤さんと横澤さんの存在が重要で、友達のような会話で息の合った掛け合いをしていたのが良かった。
- ・佐藤さんと横澤さんのキャスティングがうまくて、妄想している時間に二人が対話をするという所が、非常にテンポ良くタイミング良く入っていて、見やすい番組になっていた。
- ・妄想旅から小松さんが戻ってきて、「戻ってきました」と言った時に、佐藤さんが絶妙なタイミングで、「お帰りなさい」と発していた場面を見て、佐藤さんらしさが出ていて、妄想立会人みたいな感じがこの番組を更に盛り上げていた。
- ・ナレーターの鈴木杏さんが冒頭に「妄想の現実では決していけない場所へ旅に出る、一体どこへ。何を持って行くのか。妄想の旅は彼らの人生に何をもたらすのか。」というナレーションがあり、本当に視聴者をこの番組へと引き込んでいた。
- ・どちらかというところ、妄想癖がある人だとネガティブな印象にとられがちだが、そこに果敢にチャレンジした番組だった。
- ・妄想をどう描くかというところがテレビですごく難しいと思うが、1分とか1分半ずつ

と妄想して、そこをちゃんとMC二人の言葉をかぶせて作ってすごい工夫があった。

- ・やす子さんは自分の芸人生活のスタートの場所をちゃんと見に行き、その写真を撮って、将来の自分に見せたいと原点を大事にしたいというところが私は心に響いた。
- ・最後に横澤さんが「これってカウンセリング？」って言って、それが本当にこの番組をまとめていたと思った。私はここが一番響いたので、面白かった。
- ・会いに行くだけではなく、その当時とか、岩松院を出すなど、周辺の話を含めて出してもらったので、非常に見ていて楽しい番組だった。
- ・全体に素晴らしいレベルで、全国どこで放送してもおかしくない番組だった。
- ・人による差異を感じるのにはこの三人の設定は非常に面白かった。出来の良い番組だと思った。
- ・歴史家も現実には絶対同じ場所に立つ事ができないのにも関わらず、同じ立場に立とうとするのが我々の仕事だということで非常に共感を覚えた。
- ・東京の制作会社と共同制作するということによって企画力、配役、そして出演者の演技力、全てがかみ合った番組だった。
- ・やす子さんの「30年先の自分」というのが、憧れている人に会うだけではなく、自分というものをターゲットにしたのは飽きさせないという事で良かった。
- ・野口さんと小松さんに比較して、やす子さんのところだけがちょっと中だるみの感じがした。
- ・ジャンルとしてバラエティなのか、情報なのか、はっきりしなかった。
- ・野口さんの所で、植村直巳さんに会いに行くが、ちょっと時系列がよく分からない。時代のずれというのは若い人には把握できない。年表みたいなものがあると視覚的に分かりやすい。
- ・植村直巳の偉業を簡単にラッシュでいいから伝えたら、野口健さんの「会いた

い」という妄想がより鮮明になってくるのではないか。そういった事も大切ではないかと思った。

- ・よくあるバラエティ番組の終わり方っぽい感じがした。空想の世界に旅に出ようと思わせるようなもう少し余韻を持たせる終わり方という所も検討したい。
- ・小松さんの「北斎の深い精神状態」と言っていたのを、もうちょっと言葉として深く掘り下げてもらいたかった。
- ・製造元や具体的な商品を前に出すというのは、余りないのではないかと思った。

(2) 視聴者対応報告（令和7年1月分）

資料に基づき、令和7年1月分の視聴者対応について、編成部より報告を行った。

(3) その他

配布資料

- ・第555回番組審議会（令和7年1月）議事録
- ・視聴者対応報告資料（令和7年1月分）
- ・次回用の番組録画DVD及び番組資料
- ・モニターレポート

『 出口クリスタ 金メダルまでのディスタンス 』

（令和6年12月29日（日）午後3時00分～3時30分）

- ・BPO報告（NO. 272）
- ・民間放送ニューズレター（第2235号）

以 上